

徳大卒業生 就職活動体験記

名前：チョウ カンヨウ（張 瀞洋）

出身：中国

学歴：徳島大学大学院創成科学研究科地域創成専攻

（2026年度 卒業・修了予定）

会社：富士ファニチア株式会社（徳島県）

仕事内容：営業



（1）私が日本企業に就職しようと思ったきっかけは？：

私が最初に日本へ来たときは、日本で就職するつもりはなく、卒業後は帰国する予定でした。ですが、日本での勉強やアルバイト、日々の生活を通じて日本の文化に触れるうちに、「日本の静かでおだやかな生活環境は自分に合っている」と感じるようになり、日本での就職を真剣に考えるようになりました。加えて、「もしこのまま帰国してしまうと、日本留学で身につけてきた日本語力やさまざまな経験が活かせなくなってしまう」と強く考えようになり、日本で就職することを決意しました。

（2）就活で苦労したこと&成功したポイント：

就職活動で私が最も大変だと感じたのは、不合格の連絡を受けたときでした。日本の就職活動は多くの国とは大きく異なり、企業ごとに複数の選考ステップがあり、内定までに一か月以上かかることも珍しくありません。そのため、時間をかけて準備してきた企業から不合格通知を受け取ると、大きなショックを受けました。私自身も就職活動中に何度も不合格通知を受け取り、その度に気持ちを立て直すことに苦労しました。

そんな中で最終的に内定を獲得できた最大のポイントは、徳島大学が提供している留学生向けの就職支援のおかげだと感じています。もちろん、不合格のたびに自分で気持ちを切り替え、落ち込まず、失敗から学び取る姿勢はとても大切です。しかし、ひとりで乗り越えるのは簡単ではありません。そこで、私は積極的に大学のキャリア支援を活用しました。先生方と一緒に、不合格の理由や自分の課題を分析することで、自分では気づけなかった改善点を理解することができました。また、先生との模擬面接を通して、面接での日本語表現や受け答えの質も大きく向上しました。

これらの支援と自分自身の努力があったからこそ、最終的に富士ファニチア株式会社の選考で良い結果を出し、内定をいただくことができたのだと思います。

（3）これから就活に向けたアドバイス：

就職活動で大切だと感じたのは、失敗を受け止めて次に活かす姿勢です。不合格でも落ち込むだけでなく、原因を振り返って改善することが重要だと思います。また、一人で抱え込まず、就職支援の先生方に相談することで、新たな気づきや改善点を得ることができます。前向きに努力し続けることが、きっと成功につながるでしょう。